



## りすぐみだより 2月



日に日に厳しい寒さも和らぎ、春の陽気を感じられるようになりました。公園へ出かけると子ども達は、切り株に興味を示していました。切り株に触れたり登ってみたり、穴を見つけて覗き込んでみたりして、子ども一人一人が好奇心の赴くままに探索していました。

Aさんは、タンポポの綿毛を見つけると、保育者に指差しして知らせていました。「綿毛だよ」と言葉で伝えながらAさんに渡すと、じっと見つめた後フ〜と息を吹きかけていました。以前の散歩で保育者がしていたことを覚えていたようです。でも、息の量が足りず、綿毛は飛びませんでした。次に、指でつまんでみると簡単に綿毛は取れ、風が吹いて飛んで行ってしまいました。残った茎だけのタンポポをAさんは不思議そうに見ていました。



### 指先を使って遊ぼう

子ども達は、ままごとコーナーに置いている容器に具材を入れて遊んでいます。蓋を開け閉めするのに手首をねじる必要があるのですが、うまく開けられず「あけて〜」とお願いされることがほとんどでした。しかし、毎日遊んでいるうちに、少しずつ開け方がわかってきたようで、今では自分で蓋を開け閉めできるようになってきています。

シール遊びでは、シートからうまく剥がせなかったり、接着面が指にくっついてうまく画用紙に貼れなかったりする様子も見られましたが、子ども達は集中して取り組んでいました。



### 「どうぞ」「ありがとう」

日々の活動の中で、子ども達の口から言葉がよく聞かれるようになっていきます。

Bさんは、「どうぞ」と言いながら友達に玩具を渡して、「一緒に遊ぼう」と誘いかけていました。保育者が「おもちゃ貸してくれるって。ありがとうだね。」と伝えると、相手の子は言葉にはしないもののニコリ笑いかけて一緒に遊び始める姿が印象的でした。今後もやりとりを見守ったり、時には代弁したりしながら、子ども達の言葉を大切にしていきたいと思えます。



年度末に持ち帰る作品に進級に向けて保護者の方からのメッセージを添えさせていただきたいと思っています。お忙しいと思いますが、別紙の用紙にメッセージを記入して提出をお願いします。